

競 技 注 意 事 項

1. 本大会に適用する競技規則は、2017年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項により実施する。
2. 練習は指定された練習会場を使用する。その他審判員・競技役員の指示に従うこと。
3. 競技者の招集について

- (1) 招集場所は本競技場第1ゲート側の外に設ける。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、すべてその競技の開始時刻を基準とし、下記のとおりとする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻	種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	25分前	15分前	棒 高 跳	70分前	60分前
フィールド競技	40分前	30分前			

- (3) 招集方法

- ア. 競技者は、競技者招集所付近に掲示した出場競技者一覧表に競技者または代理人がチェックする(○で囲む)。なお、リレー競技はオーダーの提出をもってチェックとする。また、当該競技を棄権する場合は、事前に競技者係に申し出ること。
- イ. 競技者は、出場種目の招集開始時刻までに招集所に集合する。プログラム記載の招集開始時刻より点呼を始め、招集完了時刻には各競技場所へ移動を開始する。
- ウ. 招集場所での点呼に不在だった競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
- エ. 他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨競技者係に申し出て出場を確認する。

4. 競技場への入退場について

- (1) 競技場への入場は、係員の誘導に従い規律ある行動をすること。競技者以外はトラック、フィールドに立ち入ることはできない。
- (2) フィールド競技出場者の退場については、当該競技審判員・マーシャルの指示に従う。
- (3) 競技場内には映像機器・ミュージックプレイヤー・携帯電話等の通信機器を持ち込むことはできない。

5. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは、交付された大きさのまま使用し、必ずユニフォームの胸背に確実に付けること。(原則1枚につき4カ所を止める。)ただし跳躍競技については胸・背のいずれかで良い。
- (2) トラック競技出場者は、腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツ右側後方に付けること。男女4×400mRでは2・3走はパンツの両側につけ、4走はパンツ右側後方に付けること。
- (3) 3000m以上のトラック競技(競歩も含む)は、レーンナンバーカードを使用する。

6. 走路順・競技順について

- (1) トラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載どおりとする。
- (2) 準決勝以降のトラック競技の組み合わせ及び走路順、フィールド競技の試技順については、番組編成員により厳正に抽選し決定する。

7. 同タイムでのプラス進出者確定について

- (1) 800m以下の距離のトラック競技においてプラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは、判定写真を拡大し、細部(電気計時1/1000)まで読み取り着差を判定する。
- (2) 判定が不可能な場合は救済レーンを使用するが、対象選手が救済可能なレーン数を上回る場合は、本人か代理人によって抽選する。ただし、800mではスタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、一つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う場合がある。
- (3) 1500mにおいてプラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは着差判定は行わずに対象者全員を次のラウンドに進出させる。

8. 競技について

- (1) 不正スタートをした競技者は1回で失格とする。また、スタート時の不安定、不規則な動きには注意が与えられ、その内容や累積によっては失格となる場合がある。
- (2) スパイクのピンは11本以内、長さは9mmを超えてはならない。走高跳、やり投のスパイクのピンの長さは12mmを超えてはならない。
- (3) 事故防止のため、短距離走ではフィニッシュ後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- (4) 男女の競歩競技においては、制限時間を設ける。男子35分、女子40分までに4600mを通過できなかった場合は競技を中止させる。

- (5) リレーに出場するチームは、予選・準決勝・決勝とも1組目の招集完了時刻の1時間前までにオーダー用紙を競技者係に提出すること。提出時間に遅れたチームは当該種目を棄権したものとみなし処理する。なお、2日目の男女4×100mR準決勝のオーダー用紙提出については、予選が終了した1日目にも、17:00まで競技者係で受け付ける（ただし、オーダー用紙を持ち帰ることはできない）。
- (6) 三段跳の踏切板は、男子11m、女子9m地点に設置する。
- (7) 競技規則第125条5ならびに第145条2に関わるスポーツマンにあるまじき行為あるいは不適当な行為があった場合は警告が与えられ、2度警告を受けると失格となり、それ以降の本競技会におけるすべての出場権を失う。
- (8) 助力については、競技場内での助力は一切禁止とする。コーチングエリアやスタンドからの助言については場内指令が該当種目の競技役員の指示に従い競技運営や他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認める。また、コーチングエリアにおいて映像機器を競技者に見せることはできるが、手渡ししてはいけない。
応援は節度を持ち、大会の進行や競技運営に支障が出ないように行う。歌や集団による飛び跳ね等は禁止とする。

9. 抗議について

- (1) 競技中におきた競技者の結果または行為に関する抗議は、当該競技者の監督により、その種目の結果が公式発表されてから30分以内、当日に次のラウンドが行われる種目では15分以内に行われなければならない。（アナウンスによる結果発表終了時刻を基準とする。）抗議者は担当総務員に申し出たあと、口頭で審判長に抗議を行うものとする。
- (2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。抗議者が審判長裁定を不服としてさらに上告する場合は、上訴申立書（大会本部に用意）に必要事項を記入し、預託金10,000円を添えて申し出ること。

10. バーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	練習	1	2	備考	
男子走高跳	予選	1 m70	1 m75	1 m80	
	決勝	1 m75	1 m80	1 m85	以降3cm刻みとする
女子走高跳	予選	1 m42	1 m45	1 m48	
	決勝	1 m45	1 m48	1 m51	以降3cm刻みとする
男子棒高跳	決勝	3 m30	3 m40	3 m50	以降10cm刻みとする
女子棒高跳	決勝	2 m10	2 m20	2 m30	以降10cm刻みとする

- (2) 走高跳・棒高跳で第1位決定の場合のバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。

11. 予選通過記録

	走高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	1 m80	6 m40	12m90	12m00	32m00	37m00	48m00
女子	1 m48	5 m10	—	8 m80	27m00	—	33m00

※上記の記録は、天候その他の条件により変更することもある。

12. 競技に使用する用器具は、棒高跳用ポール以外、すべて主催者が用意したものを使用する。ただし、やりは検定を受けて合格したものを使用できる。検定は第2ゲート器具庫前で実施する。その際、「やり検査申請書」とやりを持参する。検査合格したやりは、「預かり証」を発行のうえ一括借り上げし、参加競技者で共有できるものとする。借り上げたやりは、第2ゲート器具庫前で投擲審判員が返却する。詳細は運営要領に記載している。
13. フィールド競技の決勝においては、試技前に選手の紹介を行う（ただし、競技進行に支障があると判断した場合は取りやめる）。
14. 各種目3位までの入賞者は結果発表後に表彰する。4位～8位の入賞者は競技場エントランスホールで賞状を受け取る。なお、全競技日程終了後、男女各1名、最優秀選手を選出し、表彰する。
15. ケガや体調不良に関しては、応急処置のみ大会主催者が行う。